

令和 6 年度 第 2 回 福岡市病院事業運営審議会 議事録

日時

令和 6 年 12 月 20 日（金） 16:30～17:30

場所

福岡市役所 15 階 研修室 A・B

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 運営・施設部会からの中間報告
 - ①増床に向けた取組みについて
 - ②整備場所の検討について
 - (2) 今後の進め方

議事録

- 1 開会

【事務局】

令和 6 年度第 2 回福岡市病院事業運営審議会の開催にあたり、委員総数 14 名のうち 13 名の出席があり、病院事業運営審議会規則第 7 条第 3 項に規定する会議に必要な定数である過半数を満たしていることを報告。

また、福岡市情報公開条例に基づき、本審議会は公開となる旨を報告。

- 2 議事

- (1) 運営・施設部会からの中間報告

- ①増床に向けた取組みについて

【事務局】

<資料 3（運営・施設部会からの中間報告）の説明>

【会長】

ただ今の説明について、まずは、①増床に向けた取組みについて、ご意見やご質問をいただきたい。

【委員】

公的医療機関等の中から相手方を選定することが望ましいということだが、対象となる病院数や、その中からどのような選択肢で千早病院が相手方としてふさわしいとしたのか説明いただきたい。

【事務局】

まず、視点①の「医療機能の維持」において、一般病床の高度急性期、急性期病床を有している医療機関は市内で 59 施設となっている。

次の視点②の「既存利用者への影響等」において、博多区及び隣接区の医療機関は 68 施設。

次に視点③の「公的医療機関等」において、市内では 9 施設。

視点①～③を順に絞り込むと視点①で 59 施設、視点②で 37 施設、視点③で 8 施設となり、視点④の築年数を考慮し、千早病院を再編等の相手方の候補とした。

【委員】

前回審議会の資料 3 には、再編等の相手が具体的にになった時点で改めて病床規模の検討を行うと記載があり、これは地域医療構想を踏まえる必要があるという大前提がある。

厚生労働省において、2040 年度に向けての地域医療構想のあり方の検討があっており、12 月 18 日に取りまとめが出ているが、改めて医療機関ごとの機能分化、連携が求められており、今回の公的医療機関等との統合はその方向性に沿ったものであると思う。

一方で、今回の資料 3 では新病院の病床規模は 300～350 床程度と、単純に足し合わせた 379 床より少し抑えた規模で書かれているが、妥当な病床数は、その地域全体の病床や医療機関の状況を踏まえて地域医療構想調整会議等に諮って検討する必要がある。また、地域医療構想調整会議に諮るタイミング等についても事務局等で検討が必要であるため、その手続きについても留意いただきたい。

【委員】

今後、再編等に向けた具体的な協議を開始するという記述があるが、現在は協議が行われていないという解釈でよいのか。

【事務局】

再編等に向けた協議は行っておらず、今から協議を開始する。

【委員】

現場で働いているスタッフが多数いるが、そういったスタッフへのケアなどについて所感を教えていただきたい。

【事務局】

両病院のスタッフの雇用や勤務条件については、重要と考えており、しっかり協議をしたい。

【委員】

病床規模に関して、確かに地域全体の中でどの程度の規模にするかは非常に大事だと思う。

一方で、今働いているスタッフのことや、既存患者を継続して診療することを考慮する必要があるので、考え方の出発点としては、二つの病院を合わせた数から考えるのは妥当な話だと

思う。

【委員】

増床を必要とする新たな取組みの中に、地域医療への貢献とあるが、委員の視点が高度医療や成人医療ばかりになっているため、今後の検討段階においては、成育医療の観点など福岡市民がどう希望しているか意見を聞く機会が必要ではないか。

【委員】

病床規模について、二つの病院を合わせた病床が 350 床となっているが、コロナ後、病床の需要はかなり減っている。

そのため、それぞれの地区の患者の状況を踏まえ、現状の病床利用率はどれぐらいか、また、市民病院が 20 診療科、千早病院が 12 診療科あるが、どういう診療科を作るかによって病床規模が変わってくるため、具体的な検討が必要だと思う。

【委員】

新型コロナウイルス級の感染症がいつ現れるかわからない状況であり、能登地震をはじめとして激甚災害も頻発しているため、災害医療や感染症対策の機能強化を含めた市民病院の早急な建て替えに向けて事務局には頑張ってもらいたい。

また、公立病院は不採算部門を担っているが、その赤字を補填しているのは一般財源であり、市民の税金なので、これから福岡としてのあり方やマクロな視点などで、10 年後、20 年後を見据えたニーズを捉え、経営的な観点からも赤字を少なくできるような経営のあり方も併せて検討していただきたい。

【委員】

前回の審議会から、市民病院が役割を果たすためには 200 床という病床規模では少ないという話が出ており、300 床以上の病床規模が望ましいと思う。

もしかしたら、今後、更に病床規模を増やさないといけない状況になるかもしれないので、病床規模や医療機能に関しては十分に検討し、病床過剰地域であっても、公立病院としての役割を担えるようになっていただきたい。

(1) 運営・施設部会からの中間報告

②整備場所の検討について

【委員】

資料 3 に候補地の救急、災害対応の項目があり、先ほどコロナのことを言われた委員もおられたが、公的病院として有事の際に対応できるということを考えなくてはならない。それは災害に対する建物の強靱さや建物が建っている場所の強靱さであり、特に、最近、温暖化で風水害の規模や頻度、スケールも大きくなっているため重要だと思う。

また、医療施設においては、電源周りが水に浸かるとすべての機能が止まる。いくら無停電装置を入れても、無停電装置そのものが水に浸かるとすべてがストップしてしまうので、その

ような災害に対して、あそこは大丈夫という安心感がある土地の選定が必要だと思う。

次に、サージキャパシティという点で、緊急時や災害時などにいろいろなものが市民病院に移行し、患者や被災者が押し寄せてくる。それに対応できるような人的資源を流動的に利用できる場所も立地としては大事だと思う。

最後に、病床数は 300 床程度だとしても、患者が押し寄せてきたときに、病院の建物の中に、一時的に患者を診察することが出来る場所的な余裕が必要であり、例えば講堂などがあればそこで患者を受け入れることが出来る。また、有事の際に、一時的に仮設の建物などがつくれる広い敷地の土地が理想であるため、理想に近づくような土地の選定の仕方を考えていただきたい。

【委員】

感染症に限らず、市民病院は災害や一次救急といった役割で大きなファンクションを果たしており、この位置からいうと、やはり今の医療圏の状況を考えなければならない。

それから、採算性や病床稼働率などの意見が出ており、全くその通りだと思うが、市民病院がコロナ時に果たした役割は、そういうことを超えたところにあり、大きな波が来たときにそれを吸収できるバッファとしての役割が非常に大きかった。

そのため、そのファンクションをなくしてはならないが、市民のために何でも診るのではなく、周りの医療機関もあるので、それを意識して作っていただきたいと思う。

予期せぬ事象に何が必要かと、その時にきちんと医療を果たせるような形で作っていただきたい。

【委員】

3 か所の候補地については引き続きヒアリング等を進めるとともに、新たな候補地となり得る土地を探すと記載があり、立地は博多区、東区であるが、3 か所の候補地とは違う場所の検討も必要になると理解している。

その場合、立地が違えば医療環境が異なる可能性があり、次の進め方にも影響があると思う。医療機能部会報告書には、医療環境が現在と異なる状況になる場合には、改めて医療機能の確認・検討が必要となると書かれており、新たな候補地を選定する場合は、医療環境や周りの医療機関が果たす役割、公的医療機関でないとできない役割は何かを明確にした上で検討すべきであるため、医療機能部会での検討も必要ではないかと思う。

【会長】

今の意見に関して、新たな候補地となり得る土地を模索していく場合には、医療機能部会での検討が必要ということでしょうか。

【事務局】

新たな候補地を選定した場合には、現在地からの距離や周辺の医療機関に与える影響などを考慮する必要がある、その際の医療機能部会の開催については、会長等に相談しながら検討させていただく。

【委員】

現市民病院は吉塚駅から近く、交通アクセスもよいが、候補地としている 3 か所は更に東になる。市民病院であるため市民が使える状況が望ましいと思うため、できれば福岡市全体を考えていただきたい。

【委員】

新たな候補地となり得る土地を探すという段階に入っているが、3 か所の候補地には学校跡地も挙がっている。教育委員会は校舎の建て替え、合築、小中一体化など進めているため、周辺の医療機関等を考慮し、全体を見ながら広い土地を選定していただきたい。

また、候補地については様々な意見があり、博多区の病院は博多区にという想いを持っている方もいると思うので、そのような意見があることも踏まえ検討していただきたい。

【委員】

市民病院と千早病院を合併して 300 床規模の病院を作ることだが、その病院がどこに建つかによって、病床数や機能の必要性が決まってくると思う。

そのため、現在の病院を合わせた病床数で想定したり、また、場所を先に決め、病床数を検討するというだけでは済まないと思えるので、車の両輪のように同時並行で、その地域に応じた病床数を考える必要がある。

現在、挙がっている 3 か所の候補地で 300 床規模の病院が本当に機能するのか不安な部分もあり、現在の市民病院から 7.5 km ぐらい離れている土地では、現在の市民病院が担っている機能が担えない部分も出てくるのではないかと思うため、市民病院と千早病院を合わせた病床数ありきではなく、並行してベストに収束するように考えていただきたい。

【会長】

病床数や場所、機能などをありきで進めるのではなく、バランスのとれた考え方で進める必要があると思う。

(2) 今後の進め方

【事務局】

＜資料 4（今後の進め方）の説明＞

【会長】

ただいまの説明のとおり、次の審議会は年度内を目途に予定しているとのことであり、委員には引き続き協力をお願いしたい。

閉会